



明日に向かって力強く

十二月九日は障害者の日

何度も、何度も繰り返し練習に
はげむ石神晃君(17)。

十一月六日～七日、徳島県で開
かれた全国身体障害者スポーツ大
会で二十五メートル平泳ぎに出場
し、見事に大会新記録で優勝しま
した。

両脚が不自由というハンディキ
ヤップをもともせず泳ぐ姿は、
本当に力強
く躍動感で
いっぱい
です。



石神君は、
スポーツ大会を終えてから十二年
間学んだ県立南紀養護学校を後に
し、和歌山市内の福祉工場で働き
始めています。

今度は晴れて社会人として、が
んばる日々は続きます。



和歌山県
WAKAYAMA
JAPAN EXPO

世界リゾート博

平成6年7月16日(土)～9月25日(日)

主会場/和歌山マリーナシティ リレーイベント 好評開催中(県内各地)



日本初公開

浮遊体感スペース NTT〈マジカルキューブ〉幻想館



NTTの世界リゾート博への出展パビリ
オン「NTTマジカルキューブ幻想館」の構
想がまとまりました。

パビリオンはプロローグゾーン(ウエイ

ティングスペース)、マジカルキューブゾ
ーン、ポケットプラザ(NTT未来ギャラ
リー)の3つのゾーンで構成されています。
メインスペースはマジカルゾーン。中央
に高さ6メートルの長方形のボックスとし
てそびえ立ちます。

中に入ると、強化ガラスの床が敷
かれ、満点の星々や星雲が頭上
にも足下にも広がり、臨場感あ
ふれる音響と映像は、まるで宇
宙空間を浮遊しているような気



分……。

ボックス内で繰り広げられる宇宙と生命
の不思議のドラマによって、マジカルキュー

ブの秘密が解き明かされ、新鮮な感動と
驚きの世界につつまれます。

リレーイベント情報

心も体もすこやかに—それが「ウエルネス」

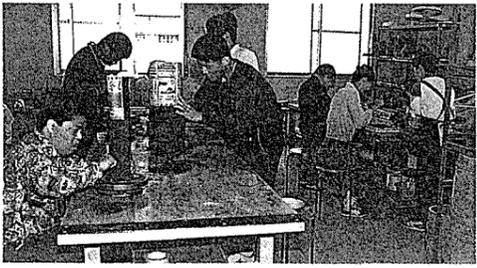
世界リゾート博の基本理念「ウエル
ネス」とは、心も体もすこやかに充たされて
いること。新しい時代のゆとりあるライ
フスタイルを考えるうえで欠かすこと
のできないものです。

リレーイベント第5弾として、御坊市、
川辺町、南部町、龍神村の各会場で「ウ
エルネス」をテーマに各界の著名人を招
き「ウエルネス・シンポジウム」を開催
します。

〈平成6年2月5日〉

川辺町(スポーツを通して)
場所 川辺町サイクリングターミナル
龍神村(休養の効用から)
場所 国民宿舎「龍神温泉ロッジ」
南部町(栄養という視点から)
場所 国民宿舎「紀州路みなべ」
〈2月6日〉
御坊市(総合的観点から)
場所 御坊市民文化会館
くわしくは世界リゾート博協会ウエル
ネス・シンポジウム係 ☎(0734)33-6388へ

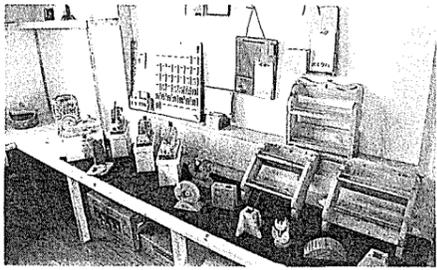
「手作り」に挑戦



知的障害者施設「南紀福祉センター保護更正部」では、日々の作業訓練に陶器の製作を取り入れています。「夢陶房」と名付けられた同センターの陶芸グループでは、十四、五人のみなさんが陶器作



りに取り組んでいます。作業時間は一日五時間程度。集中力を養うことや自分で作り上げる作品のイメージを持つことを目的に始めた陶器作りも、段々と上達し、土も信業から取り寄せるという本格的なものになっています。一つの作品が完成するには約二十日かかるとのこと。それぞれ自分の好みの方で、花瓶や湯飲み、傘立など、思い思いの作品を作っています。完成した作品は独創的なものも多く、田辺市内の専門店などに展示され、好評を得ているとのこと。同センターでは、このほかに「木まぐれ工房」という木工製品作成のグループもあり、かわいいデザインの木製日用品などを多数作っています。



十一月十九(二十一日)には和歌山市内で作品展も開かれ、作業訓練の成果を発表、展示即売会も行われました。自分たちの作った作品が売れるのは、たいへん励みになるそうです。そのほか、定期的に近くの川



の堤防の清掃、草刈りなど奉仕活動も実施。みんなで能力に応じた生活、作業、機能訓練を通じ生きる喜びを培うとともに、社会参加を目指して毎日真剣に取り組んでいます。

12月9日は「障害者の日」です。

一九七五年の十二月九日、国連総会が障害者の権利宣言を決議したことを記念して、この日は「障害者の日」と制定されています。障害者福祉週間(九日～十五

日)には、この日を機会に障害者問題についての理解と認識を深め、障害者の社会参加を図ることを目的に、各地域で街頭キャンペーンなどの様々な啓発活動を行います。この一環として、県では、総理府との共催で「出会い、ふれあい、心の輪」学校、職場、地域でのあなたの体験を広げようをテーマにした「心の輪を広げる体験作文」と、十二月九日を広く国民に知ってもらうことをテーマにした「障害者問題啓発ポスター」を募集しました。次の作品は、この事業に応募された中的一点で、生活の中の体験を通して感じたことが素直に述べられています。

心の輪を広げる体験作文

「不便? 便利な駅」

粉河町 粉河小学校5年 田中寛人

ぼくは、日頃駅を利用して感じてことがあります。それは、電車を降りるとすぐ目につく階段まで続いていたり、改札口まで続いていたり丸い黄色の点線でできている点字スタイルです。ホームの端っこにあって、反対に危なくないのだろうか。時々、三カ月に一度ぐらいの割合で大坂、梅田へ行きます。

その駅は、大きな木が枝分かれするみたいに地下が迷路のようになっています。ぼくはまだ一人では行けません。目に障害のある人や体に障害を持つ人は、本当にあんな大きな駅を利用できるのかと不思議に思います。学校のローカよりも長くて大きな通路、長い階段がいくつもいくつも立ちふさがっているのに。そばにはエスカレーターがあるけれど、けれども、それも、自分一人では、どうにもならないし、つえを支えにしている人も、車イスを支えにしている人もどんなに困るだろう。ずっと前に、障害をもつ人が駅を利用してエスカレーターに乗れずに、駅員さんに助けってもらっているのを見たことがある。

確かに駅員さんと呼ばばいいという考えもあると思うが、急いでいたり、はずかしかったり、人に見られたりといういろいろあると思う。エスカレーターやエレベーターは、ぼくたちには、歩かなくても目的地まで運んでくれる便利な機械だ。しかし、障害を持つている人には、どうやって利用するのか。トイレだってそうだ。「利用したい人は、プザーをおして駅員さんを下さい」プザーをおして駅員さんがくるまで待てない時だってある。いつもカギがかかってあるそう。利用したい人が利用したい時に、すぐ使えないのは、おかしいと思う。切符を買うのだって自動、改札だって機械がやっつしま。こんなことでは、どんな外に出ようという気がなくなってしまう。家にいる人が増えると思う。もっと、もっと、どこへでも、スーと行けたらいいのに。ぼくが年をとったら、まわりが機械ばかりで外に出られるだろうか。

電気自動車を導入



県ではこのほど、低公害車の普及を推進するとともに自動車排ガスや自動車騒音など環境問題について意識を高めてもらおうと、電気自動車を導入しました。排ガスが出ず、騒音も低いこの電気自動車は、バッテリー(鉛蓄電池)を十個搭載したもので、最高速度は時速八十五キロメートル、一充電走行距離百三十キロメートルです。県庁と田辺保健所にそれぞれ一台ずつ常駐し、騒音、振動、悪臭などの公害パトロールに活用したり、各種イベントへの出展を通して、来年開催の世界リゾート博のPR活動も行います。また、公害パトロールと同時に企業に対してアンケート調査を行い、どのような業務、条件であれば低公害車を導入できるかを検討していくこととしています。

十月三十日、田辺市で小西博之さん(俳優)、新藤栄作さん(俳優)、岸本多萬重さん(アナウンサー)の三人の「紀の国大使」を迎え、「和歌山の個性と未来」をテーマに座談会「こんながええ和歌山」を開催しました。

座談会には地元青年代表として榎本聖子さん(主婦)と榎本誠治さん(森林組合勤務)の二人も参加し、「豊かな自然と文化を生かしながら和歌山を活性化させるにはどうすればよいか」などを質問、紀の国大使のみならず率直な意見、提言をいただきました。その一部を要約して紹介します。

紀の国大使座談会

「こんながええ和歌山」



新藤栄作さん

【新藤】和歌山にはしょう油やみそなど発祥の地となっているものがいっぱいあるので、それ

【新藤】若者を呼び込んでくるとは、交通網の整備が必要。そうすれば企業の進出もあるだろうし。地元の人間が和歌山がどうあるべきか真剣に考えないといけないのではと思います。

【岸本】たとえば「リゾート」は和歌山県の大きな魅力になるでしょうが、そこで働く人たちがマニュアル通りにならないようにすべき。規模は小さくても、働いている人も肩の力が抜けた、ホッとできるリゾート地を目指せば、人も集まるのでは。

これぞ和歌山をつくりたい。

和歌山の未来は？

若者を定住させ、その力を集結させるには…



小西博之さん

【小西】若者の大半は地元に残っていたらと思うているはず。有力企業の企業誘致が不可欠だと思います。

【小西】ロケである町にいった時、国道沿いにきれいな花がいっぱい咲いていました。農家の方や青年団が協力して植えているということなんですが、とても温かい感じがしました。別に大きな施設をつくるというのではなく、たとえば国道四二号沿いを花でいっぱいにして「フラワーロード」にすれば、これは大きな財産になりますよ。自分たちが住んでいる町をすてきな、きれいな、あたたかい町にしたら訪れる人もそれを感じとってくれると思います。



岸本多萬重さん

【岸本】和歌山県には海や山がたくさんあり、すぐに行けるけれど、お手軽リゾート地にしてしまおうだと思えます。

【岸本】和歌山県には海や山がたくさんあり、すぐに行けるけれど、お手軽リゾート地にしてしまおうだと思えます。たいていのパンフレットなどは「アウトドアライフを気軽に楽しめる」というのをうたい文句にしていますが、もっと毅然とした態度で、「マナー厳守とか」「本物のアウトドアライフ」というのはお手軽じゃないんだというスタンスでPRすべきではないでしょうか。本物志向でい

けば、何度も訪ねたくなるものですよ。

また、福祉の充実、住宅の問題、教育の環境など生活基盤として選ばれる地域づくりをすれば、そのあとで企業誘致なんかもついてくるように思います。そして、若い人たちが「行政がどんなことをしているのか」ともっと興味を持つことが大切じゃないでしょうか。

「紀の国大使」とは…

和歌山県出身または和歌山県に縁が深く、和歌山県への理解、認識を持つ著名人の方に、県外から見た和歌山県について意見、提言をいただいたり、和歌山県のPRをしていただくために、現在、桂文福さん、岸本多萬重さん、小西博之さん、小林稔侍さん、渋谷天外さん、新藤栄作さん、末広真季子さん、浜村淳さん、藤田平さんの九人の方に委嘱している。

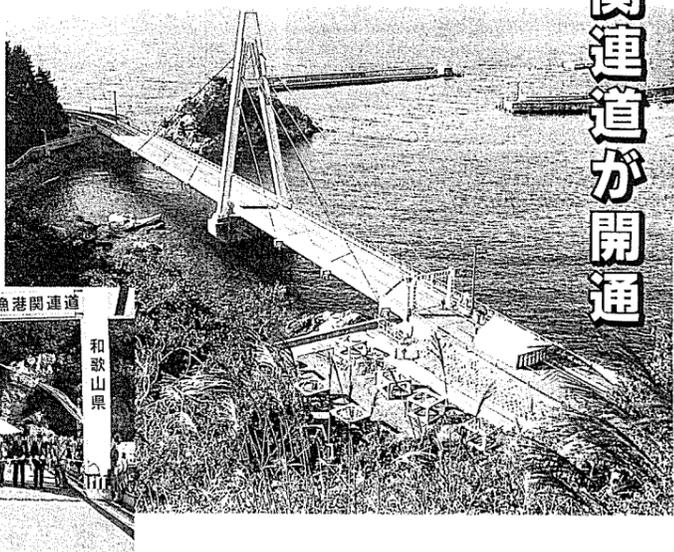
田ノ浦漁港関連道が開通

和歌山市の雑賀崎漁港と田ノ浦漁港を結ぶ連絡道路が十月三十一日に開通しました。

田ノ浦漁港および田野地区から県道に通じる市道は幅が狭いうえカーブや急な坂道も多かったため、新しい道路の整備が待ち望まれていました。

県では、既に開通していた雑賀崎地区と西浜地区を結ぶトンネルを利用して、田ノ浦漁港から海岸通りにトンネルと橋梁で雑賀崎漁港に通じる道路を計画、昭和六十二年頃から漁港関連道として建設工事を進めていました。総事業費二十億八千万円をかけて完成した道路は総延長七百七メートル、幅八・七五メートルで、瀬戸内海国立公園内ということもあり橋梁を斜張橋とするなど特に景観にも配慮を加えています。

この道路が完成したことで、



県文化表彰受賞者決まる

文化の向上発展に特にすぐれた功績のある方をたたえる県文化表彰の表彰式が十一月四日に行われました。

三十回目にあたる今年には次の方々が受賞されました。受賞者の皆さんのさらなる活躍をお祈りします。

文化賞

津本寅吉氏(小説) 津本陽のペンネームで知られる日本を代表する作家。昭和五十三年には太地の漁師たちを描いた「深重の海」で第七十九回直木賞を受賞、同年、県文化奨励賞を受賞する。その後も多くの作品を書き、最近では織田信長の生涯を描いた「下天は夢か」がミリオセンラーとなるなど日本文壇に確固たる地位を築き、和歌山県

の文化の発展、振興にも大きく貢献している。

文化功労賞

山本秀臣氏(洋画) 昭和四年第十六回二科展に入選。その後、エトール洋画会結成に参加する。明るい豊かな郷土の風景を描き続け、昭和六十二年には二紀会会員となる。和歌山県展、和歌山市展の創立にも参加し指導的役割を果たしている。

津村俊次郎氏(書道) 号は枕石。昭和三十八年に日展特選に入選する。昭和三十七年からは現在の書団神融会石門会を結成。後進の指導に尽力し、書道文化の発展向上に努めている。

文化奨励賞

森川隆之氏(音楽) 和歌山大学教育学部教授。昭和四十七年

和歌山県第九の会初演の合唱指揮を担当し、以来第九合唱団のリーダーとして活躍し多くの後進の指導育成に努めている。また、和歌山の自然や歴史をテーマに、新しいふるさとを歌を作出し、普及活動が続いている。

田中登氏(落語) 芸名、桂文福。寄席やテレビ、ラジオで活躍。橋本市で昭和四十九年から十年間「紀の川寄席」を連続百二十五回公演。現在全国市町村で「落語で村おこし」を合言葉に「ふるさと寄席」のリーダーとして若手を引っ張っている。

酒井敏行氏(医学) 京都府立医科大学公衆衛生学教室学内講師。網膜芽細胞腫遺伝子が異常になり発癌を起こす新しいメカニズムを解明することに成功。新しい癌の診断、休質診断の方法論を確立した点で注目され、



同時に新しい癌の治療法の開発につながる可能性があると考えられている。この研究の功績は医学の振興発展に大いに寄与している。

さらなる飛躍へ 1993 ふるさとこの一年



全線開通した阪和自動車道

平成5年(1993年)も残すところあと1カ月となりました。この1年、みなさんにとってはどんな年でしたでしょうか。世界リゾート博のオープニング、国道24号和歌山バイパスや阪和自動車道など主要道路の開通、きのくに志学館の完成、フランス・ピレネーオリアンタル県との友好提携、……和歌山県にとって今年も本当に活発な年でした。

1年の締めくくりとして県政の歩みを中心に「今年の和歌山県」を振り返ってみました。



きのくに志学館

1月

5日 フランス・ピレネーオリアンタル県知事一行が来県。
和歌山県における第11次道路整備五箇年計画を発表。
20日 和歌山マリナーシティで世界リゾート博の中核施設ともなる松下興産(株)のテーマパーク「PORTO EUROPEA」等の建設が始まる。開幕に向けムードが盛り上がる。

2月

6~5日 南部川村で「木炭の未来と環境フォーラム(全国木炭サミット)」開催。全国から木炭生産関係者や研究者が参加。
17日 広域農道紀の川左岸地区の建設工事始まる。



ポルトヨーロッパの完成予想模型



3月



和歌山市で紀の国大使座談会「ふるさと和歌山を考える」を開催

3日 和歌山市と高野町で世界リゾート博50日前イベントを開催。
6日 県立近代美術館で、国際的美術展として評価の高い「和歌山版画展」を開催。今回で第5回目となる。
10日 中高齢者の健康増進を図るため「喜の国いきいき体操」を制作発表。ビデオテープ等を貸出中。

4月

12日 県内初の理工系学部として近畿大学生物理工学部が開学。地域産業の高度化などが期待される。
18日 和歌山県と大阪府の府県境、葛城山系を走る紀泉高原スカイラインが完成。



建設が進む関西国際空港(今年7月撮影)

5月

20日 世界リゾート博のイメージソングが完成。軽快なリズムが人気を得る。
26日 近畿各府県や議会、経済団体などで構成する「関西国際空港全体構想推進協議会」が設立される。この構想の早期実現を目指す。
3月~4月 日置川町に(株)櫻之宮鉄工所南海工場、桃山町に(株)共栄テクシード桃山工場、下津町に高田機工(株)和歌山工場、吉備町に(株)ソエジマ和歌山本社工場がそれぞれ竣工。県内への企業誘致が着実に進む。

10日 県立医科大学移転整備基本設計まとまる。附属病院や基礎・臨床研究棟など13棟を建てる計画で、平成6年度着工、平成11年度の開設を目指す。

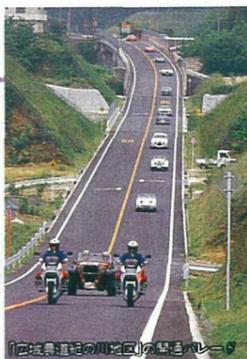


県立医科大学の平成6年度移転整備基本設計



博覧会後も恒久施設となるマリナーシティ和歌山館(模型)

13日 世界リゾート博開催期間中、県の文化や温泉、市町村の紹介などをを行う「マリナーシティ和歌山館」の建設に着工。
14日 広域農道紀の川地区が全線開通。農産物の迅速な輸送や大型機械の導入などが可能となるほか、都市へのアクセス道路として大きな役割を果たす。



紀の川地区の国道路線

6月

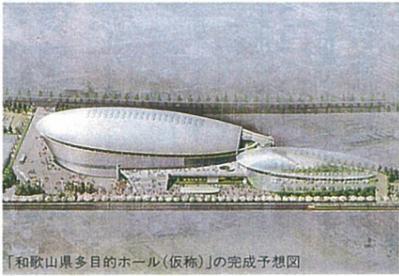
14日 果樹園芸試験場紀北分場の本館、営農管理棟が新築。分光光度計やガスクロマトグラフィーなど研究設備も充実。
20日 和歌山市西高松に厚生年金健康福祉センター「サンピア和歌山」がオープン。高齢化社会に向け、地域住民の健康づくりに役立つ施設として期待される。

1日 紀州の最高峰・護摩壇山に「護摩壇山森林公園」がオープン。総合案内所や野外ステージ、遊歩道などを整備。
15日 那智勝浦町と熊野川町日足を結ぶ県道那智勝浦熊野川線に小口バイパスが完成。熊野川町小口地区の交通の難所が解消される。



護摩壇山森林公園の総合案内所

7月



「和歌山県多目的ホール(仮称)」の完成予想図

和歌山市の旧国鉄和歌山操車場跡地に建設する多目的ホールの設計案まとまる。外観は巨大な白鯨をイメージ。約8,000人を収容できるメインアリーナでは、国際的なスポーツ大会やコンサートも開催できるように計画。平成7年に着工、平成9年中の完成を目指す。



3日 和歌山市で世界リゾート博オープニングセレモニー開催。来年7月16日の主会場開催に向け、JAPAN EXPOの開幕を高くに宣言。この後、県内各地で数々のイベントを繰り広げ、世界リゾート博ムードが盛り上がる。

10日 白良浜で世界リゾート博オープニングコンサート開催。博覧会のイメージソングを歌うグループ「ZOO」のエネルギー溢れるステージが繰り広げられた。岩出町中迫から和歌山市鳴神に至る国道24号和歌山バイパス延長12.4キロメートルが全線開通。和歌山市中心部への進入をスムーズにし、また来年開港する関西国際空港への連絡道路ともなる。



27日 西暦2000年(平成11年)の保健福祉のサービス目標量やサービス提供体制の確保策などをまとめた「和歌山県老人保健福祉計画」を策定。

30日 世界リゾート博開催期間中、県の特産物を展示、販売する「和歌山プラザ」の概要を発表。和歌山市西高松に新しい県立図書館、県文化情報センター、県立文書館からなる「きのくに志学館」がオープン。総合的な情報基地として文化の振興を図る。



広々とした県立図書館の読書閲覧室

8月

3日 世界リゾート博関西電力パビリオンの出展計画が発表される。県土の均衡ある発展を図るため、田辺・御坊地域を地方拠点都市地域に指定。

4日 第14回近畿青年洋上大会実施。和歌山県が幹事県。仮谷知事を学長に近畿2府4県と三重県、福井県の青年が中国、韓国を訪問。船内での研修や現地視察など見聞を広める。

19日~7日 和歌山市で津波に関する科学技術、社会経済上の問題を討議する「国際津波シンポジウム」開催。



和歌山バイパストンネルの入り口

31日 龍神村と中辺路町間を一直線に結ぶ林道水上橋谷線が開通。県中央部の南北軸として山間部の発展に大きな役割を果たすと期待される。

7日 県果樹園芸試験場がミカンに特殊な光線を照射して甘味を測定する品質自動選別機の試験機を民間企業と共同開発。今後も研究成果が期待される。

15日 フランス・ヒレネオリアンタル県と友好提携締結。中国山東省との友好提携以来2番目。より世界に開かれた和歌山県を目指す。

20日 世界人権宣言45周年記念「人権啓発県民の集い」開催。

25日 阪和自動車道「岸和田和泉間」が開通。



3日 「輝いて文化ときめいてふるさと」をテーマに第26回県民文化祭が開幕。田辺市の紀南文化会館でメインフェスティバルを開催。

4日 有田市民会館で「識字問題を考える県民の集い」を開催。

9月

30日 県道上富田すさみ線生馬バイパス開通。大型車の通行も容易になり、山間部の産業発展が期待される。

26日 国道42号貴志川バイパス開通。貴志川町井ノ口付近の交通混雑が解消される。



県道上富田すさみ線生馬バイパス

10月

1日 より開かれた県政を目指し、情報公開制度がスタート。

8日~7日 高野町で「第6回巨木を語る」全国フォーラムを開催。地域の生活と自然との関わりを巨木を通して考える。

16日 エイズについて正しい知識を学んでいただくため「エイズ予防セミナー」を開催。

31日 和歌山市の田ノ浦、雑賀崎両漁港を結ぶ田ノ浦漁港関連道が完成。



11月

10日 世界リゾート博NTTパビリオンの出展計画が発表される。

23日 ふるさと誕生日記念イベント御坊市で盛大に開催。



が完成、全線開通する。待望の京阪神都市圏への高速道路直結が実現。

〒640 和歌山市小松原通1-1 ☎(0734)32-4111

おしらせ



募集

県営住宅入居補欠者

芝罘団地(海南市) 1戸

野上団地(野上町) 3戸

申込用紙配布 12月6日から平成6年1月11日まで県庁正面玄関案内所、県庁住宅課、各土木事務所(和歌山土木を除く)、海南市役所、海草郡内各町役場で配布

申込 1月12日、13日(午前10時～午後4時)野上町役場で受付

くわしくは県庁住宅課へ

県立医科大学看護短期大学部(仮称)の教員

和歌山市に平成8年4月開学予定の県立医科大学看護短期大学部(仮称)の教員を募集します。設置学科等 看護学科(修業年限3年、入学定員80人、総定員240人)

看護学校等の学生

願書の受付期間、試験日、受験料などくわしくは県庁医務課、各学校、養成所へお問い合わせください。

課程	学 校 名	所 在 地	電話番号	募集人員
保健婦	和歌山県立高等看護学院保健科	和歌山市	0734-44-5582	20
助産婦	和歌山県立高等看護学院助産科	和歌山市	〃	15
三年課程	和歌山県立高等看護学院看護学科1部	和歌山市	〃	50
	和歌山赤十字看護専門学校	和歌山市	0734-22-4171	40
	社会保険紀南看護専門学校	田辺市	0739-22-1592	30
	和歌山労災看護専門学校	和歌山市	0734-52-0987	30
二年課程	和歌山県立高等看護学院看護学科2部	和歌山市	0734-44-5582	45
	国立療養所和歌山病院附属看護学校	美浜町	0738-22-3256	50
	県立南紀高等学校専攻科	田辺市	0739-22-3776	40
准看護婦	県立医科大学附属病院北分院付設看護婦学校	かつらぎ町	0736-22-0066	20
	国保野上厚生総合病院附属看護学校	野上町	0734-89-2178	15
	日高准看護学院	御坊市	0738-22-1111	15
	和歌山市医師会准看護学院	和歌山市	0734-45-9806	140
	田辺医師会准看護学院	田辺市	0739-22-1978	30
	新宮市医師会准看護学院	新宮市	0735-21-2529	30
	看護県精神病院協会の看護婦	和歌山市	0734-45-2070	20
	県立南紀高等学校衛生看護科	田辺市	0739-22-3776	40

募集人員 若干名

応募資格 昭和11年4月2日以降に生まれた看護婦(士)資格を有する方で、大学(短期大学を含む)での教育経験または研究業績のある方

応募 平成6年1月14日までに県庁医科大学整備室へ

くわしくは応募先へ

第2回くわしくおチャレンジ・ランキング大会

様々な種目の遊びに取り組み、チャレンジ精神を養います。

日時 平成6年1月8日

場所 県立潮岬青年の家(串本町)

対象 県内在住の小、中学生

参加費 無料

申込方法 電話で県立潮岬青年の家(073556)210182か串本町公民館(07356)210006へ

くわしくは県立潮岬青年の家へ

手づくり郷土賞

地域のシンボルや魅力のひとつとなつて公的な施設などを推薦してください。

テーマ ①ふるさとを紹介する道(文化、歴史、自然を紹介する道) ②人々が集い憩う水辺づくりの広場(人々の交流の場を提議する広場など)

応募 平成6年2月26日までに各市町村役場へ

応募方法などくわしくは応募先、各土木事務所、県庁監理課へ

技能者の皆さんへ

通信講座で専門的な知識を学びませんか。

対象 実務経験のある方

科目 1級機械加工、仕上げ、板金、配管、機械・プラント製図、建築大工、機械検査、建設機械整備

2級機械加工、仕上げ、板金、塗装、配管、金属熱処理、鉄工、電気機器組立、建具製作、印刷、広告美術仕上げ、機械・プラント製図、機械検査、電気めっき、木型製作、建築大工、ブロック建築、左官、かわらぶき、金属プレス加工、建設機械整備

受講料 1級8、240円

2級6、180円

くわしくは和歌山職業能力開発促進センター(0734)615649へ

中国残留孤児等のための特別身元引受人

中国残留孤児および残留婦人等の中には、近親の在日親族がないなど特別の事情により永住帰国を希望しながら帰国できずにいる方がいます。

県では、このような方々の帰国を促進するため、肉親に代わって帰国手続や帰国後の自立に

必要な相談、助言を行っていたく特別身元引受人を募集しています。

くわしくは県庁厚生課へ

県優良土産品推せん審査会への出品

実施日 平成6年2月17日

対象 県内で生産または加工された土産品(生産販売を開始して一年未満のものを除く)

申請方法 所定の申請書により平成6年1月17日～21日までに各県事務所産産課(和歌山市の方は市役所産産課)へ

申請書の配布などくわしくは県庁観光課、各県事務所産産課へ

「わが家の家計簿・生活設計体験談

内容 家計簿をつけ始めたきっかけやつけるうえでのアイデア、生活ぶりの変化および家計簿をもとにした生活設計など体験に基づく作文

賞 特賞5点各10万円、優秀賞10点各5万円、奨励賞85点程度各2万円

形式 40字詰原稿用紙5枚以内

簡単な月別項目別支出一覧表、生活設計体験談には生活設計表を添付。

応募方法 原稿に住所、氏名(ふりがな)、年齢、職業、電話番号、家族構成(氏名、続柄)、年齢、職業、学校、学年、家計簿記帳年数、生活設計を立ててからの年数を記入し、平成6年2月28日までに県庁県民生活室内県庁審判推進委員会へ

くわしくは応募先、各県事務所産産課へ

消費生活相談

衣食住など消費生活について

消費生活センター紀南支所(西牟婁総合庁舎2階) ☎07

消費生活センター1 ☎0734-1155

消費生活センター2 ☎0734-1331

消費生活センター3 ☎0734-1155

消費生活センター4 ☎0734-1155

消費生活センター5 ☎0734-1155

消費生活センター6 ☎0734-1155

消費生活センター7 ☎0734-1155

消費生活センター8 ☎0734-1155

消費生活センター9 ☎0734-1155

消費生活センター10 ☎0734-1155

消費生活センター11 ☎0734-1155

消費生活センター12 ☎0734-1155

消費生活センター13 ☎0734-1155

消費生活センター14 ☎0734-1155

消費生活センター15 ☎0734-1155

消費生活センター16 ☎0734-1155

消費生活センター17 ☎0734-1155

消費生活センター18 ☎0734-1155

消費生活センター19 ☎0734-1155

消費生活センター20 ☎0734-1155

消費生活センター21 ☎0734-1155

消費生活センター22 ☎0734-1155

消費生活センター23 ☎0734-1155

同和問題

この連載は、県同和委員会が毎年募集する同和運動啓発作文の入選作品を掲載しています。子供たちがそれぞれの生活の中で素直な目で見た「人権」へのまなざし。私たち大人への呼びかけです。

同和問題について

南部川村 清川中学校 一年 早田 佳代

私は、中学生になって初めて同和学習というものをしました。始めは何のことか分かりませんでした。勉強していきにつれて、色々な事が分かってきました。まず、江戸時代の身分制度のことを学習し、最後には、現在のことを、一年生段階として学習しました。

江戸時代の身分は、士・農・工・商と分けられますが、まだ身分外の身分の人達もいました。この身分の人達は、住む場所や仕事も限られていて大変苦しい思いをしていました。その上、他の人から差別されながら生きてきました。生まれた時から身分がきまっています。どうしようもすることができませんでした。

しかし、明治四年に「賤称を廃し、身分職業共に平民同様たるべきこと」という解放令が出され、身分外の身分の人達も平民となりました。でも、この人達は、結局差別をされました。解放令など、本当は法律上だけのものだったので、現実には、平等に扱われませんでした。これらの人達は、解放令が出され、ともうれしかったでしょう。自分達を苦しめてきた身分制度がなくなるのですから。

職業だって自由に選べるし、差別されることはなくなりました。それなのに、江戸時代と同じような差別をされるのではと、こころがなやまなやましていました。政府が積極的にこの人達を助け、差別をなくす運動をおこなえば、少しは楽になっていくかもしれない。

いくら時代が変わっても、昔と同じように苦しんでいる人がいるようでは、昔と全く変わりません。政府だけでなく、国民も一緒に努力していれば、今まで続いているということはなくなってしまうと思います。現在でも悲しい思いをしている人がいるという事は、今でも差別をしている人がいるということです。

差別をしている人は、されていられる人達の気持ちを考えたことがあるのでしょうか。自分の言った言葉や行った行動がどれだけ相手や傷つけているのか分かっていないように思います。私達は、差別されている人達の気持ちを全て分かることはできないかもしれませんが、でも、同じ人間なのだから、だいたい事は分かれます。だから、このような差別をなくすためには、自分

達一人一人がどうすればいいかをよく考えなければいけません。そして、みんな平等になるように努力しなければいけないと思います。

六年生の時も少し、身分制度について勉強しましたが、かわいそうだなあ」と同情するだけで、この人達は、どうすれば幸せになれるだろうか」など深く考えた事はほとんどありませんでした。今は少しくわしく勉強したので差別がどんなに悪いものか分かってきました。

「母の里」というのを学習をしたときには、母親の生まれた村がみんなからさらわれていた村ということだけを理由に、自分の子と離れさせられてしまっている母親はたえきれなくて自殺をしてしまいました。母親をここまでおいつめたのは差別です。差別は人の命までもうばつてしまふ恐ろしいものだったので、こんなにもつらく、悲しい事をこのまま続けていってはいけません。このまま続けていってはいけません。そして、差別はまったくないものでも、あつてはいけないものです。それは日本だけではなく、世界中も同じです。少しずつでも減らさなければいけないし、二度とくり返すことのないようにしていかなければなりません。

政治や経済も大切ですが、もっと大切な事も忘れてはいけません。まず、差別のない世の中をつくることです。

わたる税金です。軽油は県内で購入しましょう。

ひとりとりの優しさは、社会の資産です。

今年も赤い羽根共同募金運動を12月31日まで行います。みなさまのあたたかいご協力をお願いします。

軽油引取税の税率が12月1日から1リットルにつき32・1円となりました。

軽油引取税は道路の整備に使

39-22-1200

相談日 毎週月・金曜日

受付 午前9時～午後5時

軽油引取税税率が改正

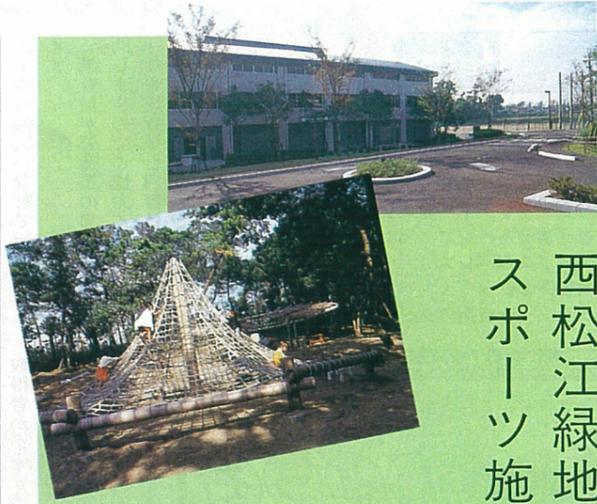
されました

小栗判官蘇生の地で サミット開催

小栗判官蘇生の地として伝えられる本宮町、湯の峰温泉。約600年前、毒酒を飲まされ重症になった判官は、照手姫の手助けによりつば湯で湯治、奇跡的に蘇ったといわれます。

このほど、本宮町で「小栗サミット 熊野のつどい」が開催されました。小栗サミットは照手姫ゆかりの岐阜県大垣市、小栗城があったとされる茨城県筑波市に次いで3回目。

物語に魅せられた方々が全国から大勢集まり、小栗判官をテーマに人形劇や芝居、太鼓などで一日中賑わっていました。(本宮町)



西松江緑地に スポーツ施設が充実

和歌山市松江の河西緩衝緑地西松江緑地に体育館と野球場が整備され、11月2日から利用できるようになりました。

新しく床板を張り替えた体育館のメインアリーナ(アリーナは競技場の意味)はバスケットボールコート2面分の広さで、サッカーもできる天然芝のグラウンドとあわせ、スポーツ施設が充実しました。緑地内には子どもたちのための遊具も備え、県民の憩いの場として人気を得そうです。

なお、スポーツ施設の使用は有料で、予約が必要です。申込みなど詳しくは(財)わかやま公園緑地協会 ☎(0734)51-8355へ

美山村にドーム 出現

美山村、椿山ダムの近くに全天候型スポーツ施設「みやまドーム」が完成。面積約千三百平方メートルのこのドームは、上から見れば丸く白い屋根で、中には人工芝が敷き詰められ、照明設備も整っています。テニスやゲートボールなどのスポーツはもちろん仮設舞台もあり、郷土芸能、伝統芸能など各種イベントにも利用できること。

隣には椿山ダムを見下ろす展望台やフィールドアスレチック施設、プールなどもあります。地域の人の憩いの場、健康づくりの場になりそうです。(美山村)

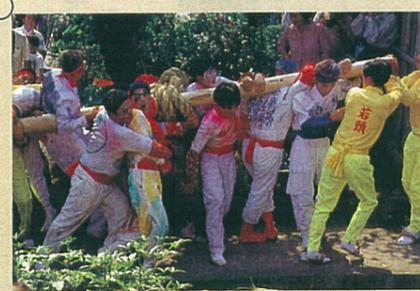


絶好の景色をどうぞ



串本町潮岬、潮岬燈台に向かう県道沿いに、東方に橋杭岩や熊野灘、西方には枯木灘などが一望できる公園ができました。以前から景色が良いことで知られる場所で、その眺望を観光の振興に生かそうと県が整備したもの。芝生を植えた園内には木造の東屋二棟とベンチ、トイレを設け、乗用車十七台、バス三台がとめられる駐車場も確保しています。さっそく遠足でやって来た地元の幼稚園児たちも、絶好の景色をバックに楽しそうに駆け回っていました。(串本町)

第10回写真コンテスト入賞者決まる



知事賞「クエ祭」

ふるさと和歌山を写そうと毎年開催している県写真コンテストも今年で10回を数えました。

今回のテーマは「おまつり・イベント」。多数の応募の中から入賞作品が決まりました。

知事賞は湯浅町の片山勇さんの「クエ祭」、特選は湯浅町の丸山尚男さんの「流し雛」、そのほか準特選2人、特別賞1人、入選15人のみなさんの力作が入賞しました。

多数のご応募ありがとうございました。なお、平成6年1月から2月にかけて県内各地での展示を予定しています。

秀吉の紀州攻めに抵抗 太田左近

シリーズ 89



太田城水攻図

天正十三年(一五八五)三月、天下統一を目指す豊臣秀吉は約十萬の軍勢を紀州に向けた。天正十二年、尾張(現愛知県)小牧で織田信長の次男・信雄を擁する徳川家康の軍と戦った際に、雑賀党、根来衆、太田党などが徳川方に味方したためであった。三月二十三日に根来寺を焼き討ちにした秀吉軍は、翌二十四日、名草郡太田村(現和歌山市太田付近)の太田城に迫った。この時、十萬の秀吉軍に臆することもなく籠城、太田党と諸郷士の兵約一千を指揮し一カ月をわたって戦い続けたのが、城主太田左近であった。

左近側は弓、鉄砲で応戦、秀吉軍の名のある侍を五十一人も討ち取った。攻めあぐむ秀吉側は城を水攻めすることにし、巨大な堤防を築き、紀ノ川の水を流れ込ませたのだ。膠着状態が続く中で左近はよく戦ったが、次第に疲れが目立つようになった。左近は自分の命と引き替えに、残りの兵とその家族ら五千人の助命を願い出、これを条件に自害して果てたという。この時、太田左近、三十二歳。秀吉の大軍の前に奮闘した勇敢さ、そして多くの命を救うため自らの命を絶ったいさぎよさは今日まで永く語り継がれている。

あとがき

本当にふと気がつく十二月、というのが実感です。津波や冷夏といった天災、政権交代といった大きなうねりの中で、皆さんのこの一年はどんな年だったでしょうか。

県でものくに志学館などの文化施設の整備や、長年の悲願であった国土軸直結が阪和自動車道の全通で実現など確かな一歩であったと思います。

来年は関西国際空港の開港。そしていよいよ世界リゾート博の開幕です。

一年間ご愛読ありがとうございました。毎月各家庭に届けていただいた皆さん、本当にご苦労さまでした。よいお年をお祈りします。